

脱・取説キャンセル界限

～「電子レンジ」や「IH こんろ」等の調理家電の事故を防ぐポイント～
(東北版資料)

1. 事故の発生状況

2020 年から 2024 年までの 5 年間で、NITE に通知があった製品事故情報※¹ では、調理家電の事故が 515 件発生しており、そのうち東北地方 6 県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)では 17 件の事故がありました。

被害状況は軽傷 4 件、拡大被害 9 件、製品破損 3 件、被害なし 1 件となっております。



ラジエントヒーター上の可燃物が発火
(再現映像)

表 1 「調理家電の事故」の発生前別件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2020年			1			1	2
2021年			6	1		1	8
2022年		1	2	1			4
2023年							
2024年			2			1	3
合 計		1	11	2		3	17

表 2 「調理家電の事故」の被害状況別発生件数※²

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
人的被害	死亡						
	重傷						
	軽傷		2			2	4
物的被害	拡大被害		6	2		1	9
	製品破損	1	2				3
被害なし・不明			1				1
合 計		1	11	2		3	17

表3 「調理家電の事故」の原因区分別発生件数

原因区分		発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの				2			1	3
	B: 製品及び使い方に問題があったもの				1				1
	C: 経年劣化によるもの		1						1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの				1			1	2
	小 計		1	4				2	7
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの								
	E: 誤使用や不注意によるもの				2				2
	F: その他製品に起因しないもの				1	1			2
	小 計			3	1				4
その他	G1、G2: 原因不明のもの				2			1	3
	H: 調査中のもの				2	1			3
	小 計			4	1			1	6
合 計			1	11	2			3	17

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。また、本資料では、調査の結果、外部からの延焼が原因であり明らかに製品事故ではないと最終判断された情報も含みます。

(※2) 物的被害（拡大被害または製品破損）があった場合でも人的被害があったものは、人的被害に区分しています。

2. 主な事故事例

○ 2021年3月1日 電気やかん(福島県、年齢不明男性)

事故内容: 電気やかんでお湯を注ごうとしたところ、スイッチ部からお湯が漏れ、手に火傷を負った。

事故原因: ヒータープレートと本体の間に配置されているシリコンパッキンに不具合品が混入したため、本体内部のお湯が下部の電装部に漏れて、スイッチ部から熱湯が出たものと推定される。

○ 2021年4月14日 電気レンジ(宮城県、年齢不明男性)

事故内容: 電気レンジで調理中の鍋から出火し、周辺を焼損した。

事故原因: 揚げ物調理中にその場を離れ、更に揚げ物モードがない左ヒーターで揚げ物調理を行ったため、油が発火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「天ぷら調理中は本体から離れない。天ぷらなど揚げものの調理をするときは必ず温度センサーを使用する。」旨、記載されている。

○ 2021年5月29日 電気こんろ(ラジエントヒーター式)(宮城県、年齢性別不明)

事故内容: 電気こんろの上に置いていた樹脂製品が焼損した。

事故原因: 未使用のヒーター上に樹脂製容器を置いていたため、誤ってスイッチを押したことにより樹脂製容器が過熱され、焼損したものと推定される。なお、取扱説明書には、「燃えやすい物をトッッププレートの上に置かない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

○ 2022年1月24日 電子レンジ(岩手県、年齢不明女性)

事故内容: 保育園で当該製品を使用後、当該製品を焼損する火災が発生した。

事故原因: 当該製品は、長期使用(25年)により、タイマーの接点が劣化して接触不良が生じたため、接触部が異常発熱して出火に至ったものと推定される。

3. 調理家電の事故を防ぐ確認ポイント

☑ 「加熱の仕組みを理解した上で使用する」

● レンジ加熱とヒーター加熱の違い

「レンジ加熱」は電磁波で食品の内側から温める方式で、「ヒーター加熱」はヒーターからの熱で食品の外側から焼き上げる方式です。

● IHヒーターとラジエントヒーターの違い

「IHヒーター」は磁力によってIH対応の鍋※³自体が発熱する方式で、「ラジエントヒーター」はトッププレート内部の電熱線が発熱し、その熱がトッププレートを介して鍋を加熱する方式です。

☑ 「取扱説明書や商品パッケージに記載の注意事項を守る」

取扱説明書や商品パッケージに記載されている注意事項をよく確認し、モード選択やタイマー設定が正しいかどうかを必ず確認してから加熱を開始しましょう。

☑ 「こまめに掃除し、熱くなる場所に調理器具以外のものを置かない」

電子レンジは庫内やドアの内側に食品かすなどの汚れが付着した状態で使用すると、炭化してスパーク（火花が発生）し、発火するおそれがあります。

IHこんろは、IHヒーターの上でカセットボンベや缶詰等を誤って加熱すると破裂するおそれ、ラジエントヒーターの上で可燃物を誤って加熱すると発火するおそれがあります。

4. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構＋NITE のロゴ」としてください。

（本件に関する問い合わせ先）

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所（略称:NITE）

責任者（支所長）：齋藤 康之

担当：安海（あんかい）、福井（ふくい）、成田（なりた）

電話：022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

nite



YouTube NITE 公式アカウント



X NITE 公式アカウント



Instagram NITE 公式アカウント

